

授業参観アンケート回答結果について

平成29年6月26日(月)から7月7日(金)の期間に実施された授業公開に対するアンケート調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。お蔭様で多数の回答が寄せられましたので、授業を参観した感想や意見について学内に向けて公開いたします。工学部教育企画委員会FD部会では、これらの感想や意見を参考に今後の授業公開のあり方やアンケートの調査方法について審議することにしておりますので、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

【アンケート(b) の質問内容】

質問1 授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

質問2 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

【質問1 に対する全回答】

《機械工学科》

- ・学ぶということにはやりすぎは無いことを自覚し、より一層の研鑽を積もうと思う。
- ・演習系の授業なので、もう少しインタラクティブな内容を取り入れても良いように感じました。
- ・その講義回の講義内容の全体像を示し、講義中は、現在どの部分について話しているか、学生に伝える必要性を感じた。レジメや板書の構成を工夫して、全体像を示すように改善しようと思った。

従来から気を付けていたつもりでしたが、学生の基礎知識に基づいて話を構成すること、十分な具体性を持つこと、話しの動機付け、方向性を明確に伝えること、など、反省させられました。

- ・可能な限り講義の本質的な部分を理解できる学生を増やすことを心掛けていきたいと思いました。具体的には、写真を中心とした解説を行い、抽象的になりがちな講義内容を視覚的に補強して本質的なところを印象づけていくようにしたい。また、板書の上に終始して学生が飽きることはないように注意および工夫していきたい。

《電気電子システム工学科》

- ・黒板やホワイトボードで簡単に行える「徐々に変化する」という長所を、PowerPoint で実現する方法を考えてみたい。
- ・熱のこもった説明はとても印象的で、自分もそうありたいと思った。
- ・説明途中での間の取り方がうまく、自分でも取り入れたいと思った。
- ・概念を口頭で説明するだけでなく、概念を数式と絡めて説明することが必要だと思いました。
- ・どうしても講義の途中から早口になりがちなので、ゆっくり話して説明できるように改善していきたい。
- ・スライドをノートに書き取らせていて、その時間を一定時間取っていらしたようである。学生は一生懸命書き取っていた。自分の授業の場合はすべて WebClass にて事前配布し、その印刷したものに、私の板書やスライドへのスタイラスでの書き込みを、学生が授業中にその印刷物に書き込むことでテキスト兼ノートを完成するようにすることを推奨してきたが、近年はダウンロードせずにスマホなどで見ながら授業を受けるだけの学生が出てきたこともあり、田井野先生の授業に倣い、書き込ませる量をもう少し増やした方が、学生が授業中に緊張度が高まる効果があるかもしれないと思った。(配布するスライドの内容をさらに削減する工夫が必要であるが、検討に値すると思った。)
- ・板書の隅に板面番号を書いて、板書の順番が分かるようにする。

前回講義で分かりにくかったところを学生にアンケートを取り、次回講義で補足説明する。

- ・演習を担当しており、各演習ごとにその進め方などがあまりに違うのは、学生から見ても良くないことと思い、他の演習科目の授業参観をした。

自分の演習では、小テストの回収、採点結果の配布の時間の節約のため、座席を指定させており、演習の時間帯に学生同士で相談することが比較的少ないと授業参観をして気づいた。また、座席を指定して、後ろになった学生から黒板が見えないなどの意見もあり、今後、2つの一部矛盾する点を改良できるか検討することにした。

- ・自分の授業は履修者が多く、教室が大きいので、板書を丁寧に大きく書くこと、およびマイクを使用し、元気な声で解説することが

非常に重要であると思います。また、学生の興味や緊張感を引き起こすため、例題を多く解説すること、および時々学生に質問することも有効であると思います。

現在自分の講義で割り当てられた全学講義棟の教室にはホワイトボード 1 枚だけで、手書き内容の多い講義なので、書いた内容をすぐに消さなければならず、講義を進行させるのに非常に不適切であると痛感しています。教室の変更を要求したが、実現できず、来年再度依頼を出したいと思います。

《情報システム工学科》

- ・「〇〇学科の学生としては、…」のように、学生の立場に沿った話題提供をするなど、学生に当事者意識をもってもらう工夫を授業に取り入れたい。
- ・学生の理解度を適宜確かめながら、必要であれば補足を挟むようにしようと思った。
- ・プログラムの動作を説明するには、実際にプログラムの実行を見せて解説するのが一番良い方法であることを改めて認識した。ただし、演習であれば、自らプログラミングするため、プログラムの動作を説明しても、学生は自ら確認することができるので、学習の効率はよいと思う。しかし、講義において、プログラムの動作を説明する場合には、学生は聞くだけになるため、演習と同じように授業を進めることがよいとは言えず、講義の場合のプログラムの動作説明をどのように行うかを検討する必要があると実感した。

《応用化学科》

- ・学生に確実に理解させながら授業を進めるために、スピードを少し落として話すことを心掛けたい。
- 教室後方に固まりがちな学生を、座席を指定することによって教員との距離を縮めることも考えたい。
- ・今回参観した2つ授業では、いずれも説明をゆっくりと丁寧に行っており、早口になりがちな自分にとって見習うべき点であると感じた。
 - 一方で、授業の進行が遅れるのではないかと心配もあり、今後、重要なところとそうでないところで、授業にメリハリをつけたい。
 - ・Webclass を活用して、資料や演習問題の学生への提供を始めてみようと思いました。
 - ・今回見せていただいた先生は、講義の進行がちょうど良く、理解しやすいものであったと思います。講義の補足資料の作り方等は参考にさせていただきたいと思います。
 - ・私の講義において、授業内容が多く板書量が多くなってしまい、授業中に学生が理解する時間を与えられていないように感じています。参観した授業では、プリントやパワーポイントのスライドを利用して板書の量を減らし、学生の理解を深めるように努めていたように感じました。今後はプリントやパワーポイントによるスライドを活用して、学生が余裕をもって授業に臨めるよう改善していきたいです。
 - ・実際には時間が無く自分では改善できる状況にはないが、配布プリントの完成度の高さは教育に効果的であると感じた。
 - ・授業時間内で、学生に考えさせるチャンスを少しでも増やしてみようと思いました。
 - ・学生の座る場所の指示を行った方がよいと感じた。
 - ・学生は何も言わないと教室の後ろの方に座ってしまうが、そうすると授業中のコミュニケーションがとりにくいので座席を指定するのはよい案だと思った。

《機能材料工学科》

- ・受講者が「見られている」という感覚を持つようにするのが大事ではないかと思いました。
- 講義で話す内容に集中しすぎると、受講者に注意が向かなくなる傾向はありますので、自分も気をつけなければいけないと思いました。
- ・参観した授業が、開始 6 分で担当教授が「自習！」と言っていなくなってしまった。
- 学生諸氏は、講義の準備不足で自室に戻ったと認識し、静粛に 20 分以上教室で待ち続けていた。正直、「反面教師」…という印象を持ったが、今日の学生が極めて素直で真面目であることに感心した。
- 自分自身の講義では決して見習わず、十分な準備の下、学生諸氏は支払っている授業料分、自身の給与分程度の働きはすべき

と考えた。そういう意味で、衝撃的かつ、刺激的な講義だった。

・授業時間内の学生への随時指名と問答、をあまりやったことがなかったが、基本的なスタイルではあるが効果的であると思われ、参観した授業で行われていた状況を拝見し、取り入れてみたいと思った。

・パワーポイントを使用して行う授業において、ノートに書き取る時間をしっかり確保している講義は初めて参観させて頂いたように思います。

資料を配付するのも良いですが、学生は資料が手元にあることで安心感を覚え、教員の話真剣に聞かなくなる弊害があると感じていたため、参考にさせていただきます。ただ、教える内容をかなり絞らなければ難しいとも思います。

・配布資料、対応するパワーポイントで1つずつ丁寧に説明しながら進めており、親切でわかりやすい。その分進度は遅くなるが、題材を厳選すれば有効であろう。自分としては「大学生たるもの自習が前提であり、かつ学部レベルでの必須事項がある」という考えでそれなりに努力しているつもりではいるが、授業アンケートでは進捗が早い、板書が早い・多い、字が小さい etc.のコメントが毎度見受けられる。様々なタイプの授業があってよく、基本的考えを変えるつもりはない。

細部に関しては、丁寧な説明、一般論の後にその実例を(できれば動画で)紹介する等の工夫は可能な範囲で取り入れたい(時間枠の関係で難しいが)。

・学生に自ら思考させるためのステップや関心・意欲を向上させる学習形態について工夫しながら、中身のある授業にしていきたいと思えます。

《建設工学科》

・講義の前の準備は大事で、式の誘導など完璧に準備する必要があります。講義の内容が多いので、全体の時間の中で講義の説明のフローをコントロールする必要があります。その一つの方法としては、一つの講義内容を分割して、小節ごとに内容をまとめることで、一つ一つの小節を時間内に終われば、全体に時間的に時間がたります。

あんまり短い時間で多くの内容を説明すると、学生が理解できないので、重要な内容をゆっくり説明することが大事だと思います。ホワイトボードを相互に使う、一枚に一つの塊の内容を収まるように工夫する。そうすれば、学生がメモしやすくなります。重要な式を枠で囲み、強調すること

複数色のマジックを使うと、板書が理解しやすくなること、書く前どのように色分けするかを考える必要があること

・複合的な伝達形式による講義の実施や後半での対話形式での演習について、自分の講義でも見直すことを考えたい。

・学生を飽きさせないために、パワーポイントなど、スライドを用いた授業においては、図表を多用することが重要であることを再認識した。

・小テストなどを繰り返し実施されているのはよいと思い、取り入れてみようかと思いました。

・参観した授業では、授業導入時に学生を話に引き込むような話題の工夫をされており、自分の授業でも見習わなければ思いました。

《環境共生学科》

・奥行きのある教室を考慮して、見やすく大きな文字で板書をしていました。

話ぶりもゆっくりと、順序よく話していると思います。

【質問2 に対する全回答】

《機械工学科》

・ある時期から全ての授業を対象にしたため、一つあたりの授業の見学者が激減し、結果として無記名アンケートとは言え、見学された教員はアンケートの記入者を特定できるようになってしまいました。私自身は無記名のアンケートは良いとは思っていないので、回答時には記名するようにはしておりますが、事実上無記名アンケートになっていないことが、見学を躊躇することになっているように思います。(つまらない話ですが。)

また見学したら見学しただけの発見があるというのは確かに間違っはおりませんが、私自身は学科で授業を担当されている方の授業は全員見てしまったので、個人的にはそろそろ意義を感じなくなっております。やり方を再検討しても良いとは思いますが、再検討の手間もばかになりませんから、手間と効果のバランスを考慮した上で今後どうするかを決めて頂ければと思います。

まずは1学科あたりの公開科目を2～3に減らせれば、色々な手間も減るように思います。

- ・他学科の同じような内容(主旨)の講義を見学することで、自分が受け持っている講義に対する新たな気づきが得られました。
- ・教員の教育スキルの向上にとって重要なことであり、継続する必要がある。
- ・第三者の目から見た意見を聞くことは今後ますます重要になると考えます。また教員同士がお互いの講義内容にもっと関心を持つように心掛けるべきだと思いますので、授業参観は今後も継続していくべきだと思います。

《電気電子システム工学科》

- ・他の先生方が担当されている授業を堂々と聴講できる良い機会なので、今後も続けて欲しい。
- クォーター制導入によって4年に1度しか聴講できない科目があるので、FD部会で何か検討して頂けるとありがたい。
- ・いくつ講義を参観すればよいのか、事前にノルマを教示してもらいたかった。
 - ・小教室の講義の場合、講義の途中から教室に入りづらいので、後ろの数席はオープンクラス用に空けておくなどの対策をとると参観しやすくなるかもしれません。
 - ・学科などで、関連した科目においては、その用語、利用方法など一定の共通性があるように各教員が注意する必要がある。が、出身大学などのそれぞれの手法で教えることもあるので、FD関連とは別に学科内でそれらは確認することは重要に思う。

《情報システム工学科》

- ・他学科の授業を見学するよい機会となっています。ほんの一部しか見ることはできませんが、その中でも参考となる部分を見つけることはできますし、また1科目であれば聞きにくい負担も少なく済み、気軽に参観することができました。
- ・クォーター制になったため今後どのように運用していくのかわからないが、実施についてはこれまで通り年に一度としてほしい。その場合、第一タームか第三タームに開催すべきだと思う。今回は第二タームで行っているため、第一タームのみ講義は対象にならない。
- ・授業参観は大変ではあるが、知見が広がるので引き続き行った方が良いと思う。

《応用化学科》

- ・参観する側、参観を受ける側、両者にとって刺激になるので、よいことだと思う。しかし、1年に1回ではなく、実施にもっと間隔を置いてもよい(例えば2年に1回とか)。
- ・自分の講義のスタイルを見直す良い機会になっているので、来年度も継続して行ってください。
- ・他の先生の講義はとても参考になるので、今後も継続して行って欲しい。自分の講義について考える良い機会である。
- ・授業をする教員にとっては、他の方からの意見は参考になるのでよい取り組みだと思う。

《機能材料工学科》

- ・ほぼ全教員のFD活動への参加が必須となる中で、手軽に参加できる良い方法だと思います。後ろにいと、また、違った目で授業を眺めることができますので、講義をされる先生の「もう一つの目」として、働くことができるのではないかと思います。
 - ・今回拝見した授業は、感心できるものではなかったが、これに対するコメントが本人に届くことによって、再発防止が期待できる。そういう意味で、必要な活動であると判断した。
 - ・毎回参加する方とそうでない方に分かれてしまっているような気がしてなりません。
- なるべく全員に参加を促すような取り組みが必要かと思えます。
- ・座席(特に後方)は埋まっており、教室全体が狭いと教員がやや入り難い雰囲気がある(気にしなければよいだけとも言えるが・・・)。
- 教室後部で居眠り中、またスマホ画面から顔を上げない学生が散見され、しかも教員が入ってきても態度を変えない実態を再確認した。自分の授業でも常にそうした状況があり、課題となっている。
- ・教育の質の向上に役立つ良い機会だと思いました。

《建設工学科》

- ・自分の講義における学修効果を高める上で重要だと思えます。
- ・若手教員は、授業参観を通じて自分の教育の品質を向上できると思えます。今後も参加したいと思っております。
- ・他の先生が実施する授業を参観することにより、授業の進め方などを学び、これを自身の授業へとフィードバックすることができる。また、最後部に座ることで、学生の授業に向かう姿勢を、いつもとは異なる視点で確認することができた。
- ・授業の仕方は先生それぞれで違うと思うので、授業参観の実施はためになると思えます。

《環境共生学科》

- ・2週間があつという間に過ぎてしまうので、1か月くらいの期間ととってもよいかと思えます。(しかし、ぎりぎりにならないと動かないかもしれません)